

第1回住民ワークショップ（2019年9月8日）

① 広陵町、ここがいいよね（現在）

- ・ 都会へのアクセスが良い
- ・ 地場産業（靴下）が衰退しているが、それでも維持できている（新企業の参入）
- ・ 企業誘致が活発である
- ・ 大きな山、川が少ない分、災害が少ない
- ・ 自分たちの健康づくり、コミュニケーションが活発→人と人とのつながりができている

- ・ ちょっと都会・ちょっと田舎
- ・ 河川がきれい
- ・ 子育て
- ・ 住みやすい
- ・ 道路、文化芸術
- ・ 公園が多く、きれい

- ・ 田がよい
- ・ 防災面がよい
- ・ 教育施設が整っている
- ・ 病院近し
- ・ 都会まで行きやすい（箸尾駅に近いから）
- ・ プールが近い
- ・ 伝統行事がある
- ・ 高速インターに近い

- ・ 教育水準が高い
- ・ 安全
- ・ 新宅、空家が少ない
- ・ 転入、移住者が多い
- ・ 議会、役場が協力的
- ・ 町長が気さく

- ・ 愛着が持てる → 外に出ても戻ってくる
- ・ 地域のイベントが活発
- ・ 横のつながりがある
- ・ ほどよく都会、ほどよく田舎

- ・ 町のサイズ（人口、面積等）がちょうどいい
- ・ ほどよいイナカ感、マチ感
- ・ 都市部へのアクセスがよい
- ・ 歴史・自然が豊か
- ・ 地元にしかりとした産業がある

- ・ 人が温かい！
- ・ 地域の交流の場が多い（公園、祭）
- ・ 地域のつながり！ イメージの一致
- ・ 人それぞれ親しみやすい（住民さん、職員さん）
- ・ 距離が近い
- ・ 待機児童が少ない
- ・ ほどよい田舎！

- ・ 町職員が丁寧
- ・ 北校区は団結が強い

第1回住民ワークショップ（2019年9月8日）

② 広陵町のここがあかん！

<ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便 ・地場産業、農業で後継者がいない→衰退 ・空家増加（高齢者が多い） ・小規模開発が多く、つながりが希薄 ・道が狭く、袋小路が多い（住宅地他） ・新旧住民のつながりが無い、できにくい ・情報発信が下手（働く場も） ・大きな病院がない ・交通が不便 → 自転車道の整備、バスの利便性向上 ・近所つきあいが希薄 ・災害に弱い（水害など） ・昼間の電車の本数が少ない ・古い家が多い ・空家が多い ・喫煙できる場所がない → ポイ捨ての可能性 ・夜（道）が暗い ・職員が（役場の）自席で食事をしているのが見苦しい ・人材育成が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・道が狭い ・歩道整備が悪い ・公園の遊具が少ない ・子どものためのものが少ない ・公園に影が少ない（人影、木陰） ・竹取公園でイベントを！ 企業誘致 ・教員が少ない ・車がないと暮らせない。でも高齢者は免許返納をすすめられる ・小さい商店が少ない。あってもシャッターが閉まっている ・商店街は暗くてコワイ（夜） ・真美校区が何をしているのかわからない ・歴史、自然への認知、活用 ・産業への愛着（地産地消） ・幼・保育園のバランス ・中学校等の環境 ・行政職員のバランス ・情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・車がないと生活できない ・四季毎のイベントが少ない ・買い物とかを広陵町内でしない ・町内のことを知らない人が多い ・活気がない（地産地消できる場所） ・医療機関が少ない ・広報が下手 → 一緒にやろう!! ・町会議員の数が多い ・三六協定結んでいるか ・町会議員の給料が高い ・区、自治会への加入が少ない
--	--	--

第1回住民ワークショップ（2019年9月8日）

③ 将来、こうなったらあかん！

- ・公共事業に伴う必要経費の値上げ
- ・あかんものはあかんと言える自治体
- ・住宅が増えることで緑資源がなくなる
- ・休耕田をふやさない
- ・子どもの教育における教師の負担をかけること

- ・独居老人の増加
- ・空家の増加
- ・公共交通の廃止はダメ
- ・農地の耕作放棄地増加
- ・子どもがいなくなる
- ・働く場が減少する

- ・田をなくさない（農業人口）
- ・電車の本数を減らさない
- ・ナンバーワンの気持ちをなくしてはだめ
- ・空き家が増えてはダメ
- ・若年人口が減ってはダメ ← 働く場が必要
- ・病院が減ってはダメ（往信が大切!!）
- ・高齢者を大切にできない
- ・住民間の連携ができなくなったらダメ

- ・孤立、孤独死
- ・あいさつができない子ども
- ・ネグレクト
- ・生活保護を受ける人が多い
- ・建物、道路等が整備されなくなる
- ・子どもの減少（いなくなる）
- ・公共交通機関の廃止

- ・若い世代が少なくなる
- ・土地の有効利用ができなくなる
- ・区内の活動がなくなる（元々住んでいる人と新しく来た人とのコミュニケーションが希薄）
- ・若い人 寝に帰るだけ（地域のつながりの必要性がわからなくなる）

- ・農地、自然がなくなる
- ・町のつながりがなくなる
- ・他市町村への移住
- ・役場の高齢化、あきらめ
- ・助けを呼べないまち
- ・地元企業がなくなる
- ・地元愛がなくなる

- ・地域コミュニティの分断
- ・空家の増加
- ・住民・行政・議会、三者の協働の希薄化
- ・世代間の温度差（「新住民」という言葉）
- ・若い人が住めないまち
- ・差別なく最低限度、住民が生活できなくなるまち（買い物難民、介護）

- ・地域コミュニティがつぶれる
- ・各自治会が任意団体なので加入率が低い
- ・住民が流出しないように
- ・交通手段を考える

第1回住民ワークショップ（2019年9月8日）

④ だから、将来はこうなってほしい！

- ・学校、地域、家庭のつながりを強くし、子どもたちを守り、育てる
- ・財政再建団体にならない
- ・交通の便が良いまち
- ・障がい者、高齢者などのすべての人が住みよいまち
- ・後継者を育てる組織づくりをするまち（資源を守るため）
- ・歩いて暮らせるまち
- ・住みたい、働きたいまち
- ・多世代、企業の発展
- ・どんな問題でもなんとか解決するまち
- ・つながり、支え合い
- ・助け合いのまち!!
- ・何でも言いやすいまち
- ・自慢できるところがあるまち
- ・駅周辺が栄えているまち（商店街等）
- ・今ある施設（公園など）を十分に活かすことができるまち → 公園（子どもたちが遊べる場所）
- 若者が増える
- ・職員の（専用）休憩場所 → 職員に期待

- ・持続的な人口増加
- ・多様な働き方が可能に
- ・適材適所な働き方
- ・引きこもり減少、なくなる → 働ける場所、居場所
- ・地域、地区どうしのつながり
- ・コミュニケーションの場が多数、多様
- ・それぞれに役割があり、偏りが無い地域、地区、自治体
- ・災害に強いまち
- ・元気号の有効活用
- ・大きい施設を誘致する
- ・住民・行政の関係を強くする → 参画できる場が増える
- ・地域から広報の原稿を出す → 何をやっているか、情報公開できる（真美が何をやっているのかわからないので）
- ・子どもが安全に歩ける
- ・愛着を持てる教育を
- ・自然と歴史を愛する人であふれる
- ・百年残るまち
- ・子どもを育てたくなるまち
- ・つながる（助け合う）まち
- ・住民メインのまち
- ・おもてなしのあるまち
- ・熱い思いをサポートできるまち
- ・働きたくなるまち

- ・新しい人がいつも入ってくるような魅力あるまちづくり
- ・広陵町が楽しい！
- ・三者懇ができる場！
- ・いくつになっても（ゆりかごから墓場まで）安心して暮らせるまち
- ・いなか（田舎）をしっかりと知れるまち
- ・情報共有
- ・特産品のPR!!
- ・自治会の強制加入
- ・町内職員を増やす
- ・子どもの声が聞こえるまち
- ・多様な人が住めるまち